

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援室さくらん房			
○保護者評価実施期間	令和8年 7月 1日		～	令和7年 7月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	25
○従業者評価実施期間	令和8年 7月 1日		～	令和7年 7月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 8月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭以外で安心して過ごせる場所であること。	子どもたちが「自分のことを分かってくれる人がある」「困ったときに頼れる人がある」と感じられるよう、一人ひとりの思いや状態を丁寧に受け止めています。決まった方法にこだわるのではなく、その時々様子や気持ちに応じた柔軟な対応を心がけています。	子どもたちが安心して過ごせる場であるためには、一緒に過ごす友だちや仲間の気持ちにも目を向けることが大切だと考えています。今後も一人ひとりの心身の変化を丁寧に把握しながら、環境面と支援面の両方から、より安心できる居場所づくりを進めていきます。
2	子供たち一人ひとりにあった支援やプログラムを提供できること。	子どもたちそれぞれの興味や関心を広げられることを大切にし、「やってみたい」「これならできそう」と思える活動を取り入れています。好きなことや安心して取り組めることを活かしながら、楽しんで経験を積み重ねられるよう支援しています。	日々のさまざまな経験を通して、一人ひとりができることを増やし、自分らしく力を発揮できる場となることを目指します。子どもたちの成長や興味の変化にも柔軟に対応し、その時々に適した活動を提供できるよう工夫していきます。
3	いろいろな希望に沿う活動が取り入れられること。	保護者の方からのご希望や、子どもたち自身が「苦手」と感じていることを踏まえ、一人ひとりの気持ちや心の動きを大切にしながら支援しています。本人が無理なく取り組めるタイミングを見極め、安心して活動できるよう配慮しています。	個々の持っている力や良さを伸ばすことを大切にしなが、周囲とのつながりも感じられるような支援を意識していきます。個別での関わりを基本としつつ、集団の中で互いに刺激を受けたり、共に成長したりできる機会も大切にしていきます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながりが少ないこと。	季節を感じられる経験も大切になが、天候や子どもたちの様子を考慮して、地域の公園や児童センターなどへ出かける活動を行っています。一方で、日常的に地域の方々と交流する機会を十分に設けることには難しさがあります。学校休業日など比較的時間に余裕のある日には、地域との関わりにつながる活動についても検討し、実施しています。	子ども一人ひとりの状況や気持ちを大切にし、「今は必要ではない」「無理をしない」という選択も尊重しながら、社会とのつながりを持てる方法を考えていきます。子どもたちにとって無理のない形で地域とつながる機会を少しずつ広がっていきます。
2	平日は集団活動を取り入れにくいこと。	学校休業日には、子どもたちが一緒に取り組める集団活動を行っています。一方、平日の利用時には、一人ひとりが安心して過ごせることを優先し、それぞれのペースで活動できる時間を大切にしています。そのため、集団の中で他児と関わりながら活動する経験を十分に確保することが難しい場合があります。	平日の限られた時間の中でも、子どもたちが参加しやすい小集団での活動を取り入れるなど、活動内容を工夫していきます。一人ひとりの得意なことや興味のあることを活かしながら、それぞれが自分に合った方法で参加できるようなプログラムを検討していきます。
3	個別活動と集団活動の両立が難しいこと。	一人ひとりの特性やその日の状態に合わせた個別支援を大切にしている一方で、子ども同士で関わる中から学ぶことや、集団活動を通して得られる経験も重要だと考えています。個別支援と集団活動のバランスをどのように取るかが課題となっています。	子どもたちの興味や得意分野を活かしなが、参加しやすい小集団活動を取り入れるなど、個々の状況に応じた参加方法を工夫していきます。一人ひとりが安心して過ごせる環境を維持しながら、他者との関わりや集団での経験も積み重ねられるよう支援していきます。